

JSS F4 Scholarship Report

JSSスカラシップドライバー(S-FJからF4へのスカラシップ)大湯都史樹選手の参戦レポート



2016年JAF地方選手権F4西日本シリーズ 第4戦 第5戦
大会名 2016 岡山チャレンジカップレース
スーパー FJ&F4サマーフェスティバル
開催日 2016年 7月30/31日
開催場所 岡山国際サーキット
参加台数 13台

岡山国際サーキットでのF4西日本シリーズ第4戦、第5戦は「スーパーFJ & F4 サマーフェスティバル」として開催され、大会賞金の設定に前夜祭も開催されるなど興味深いイベントとなった。また東日本シリーズからの参加も多く、参加台数は13台と今シリーズで最大となった。そして、車両も9種類の機種が出揃い、オープンカテゴリーらしい賑やかなレースになった。

大湯選手には前戦の鈴鹿から若手ライバルの参加により熱戦が繰り広げられているが、それでも3戦連続で勝利を掴んできている。今回、加えて東日本で戦うトップコンテナーも加わり、よりハイレベルなレースが展開されることになった。

■練習走行

2日間に渡る練習走行では、大湯選手は前回のレースからのオーバーステア症状が出ており、セッティングを繰り返しての走行となるが、なかなか収まることなく時間が過ぎていく。他ではF4西日本シリーズ初参加となる小高選手が調子良くタイムを伸ばしている、また前回のレースで接戦を演じた澤田選手も良いタイムを出しており、そして東日本から参加の金井選手なども好タイムを刻む、また実力派の八巻選手もタイムを上げてきており、これまでの同シリーズとは異なり、かなり接近したタイム争いとなっている。

■公式予選 第4戦予選2位/第5戦予選2位

9時45分から15分間で行われた予選はベストタイムが第4戦の予選、セカンドベストが第5戦の予選タイムとなる方式。各車タイムアタックに入るが小高、澤田、金井選手などが1分32秒台の好タイムを出してくると同様に大湯選手も32秒台に入る。やはりオーバーステアを抱えているが、それでも6周目に32,502を出して他を凌ぐ、しかし小高選手も同じ6周目に唯一31秒台に飛び込みポールを確定する。大湯選手は2位に、澤田選手が0.007秒差で3位となった。続いて金井選手、Hパターンクラスの八巻選手、久保選手が4位5位6位と続いた。

また、第5戦の予選となるセカンドベストタイムも全く同様の順番となり、小高、大湯、澤田、金井、八巻、久保選手の順で2戦共に同じグリッドに並ぶこととなった。

第4戦 予選

Pos	No	Cls	Driver	Type	Team/Car Name	Time
1	5		小高 一斗	KK-ZS	MARUSAN☆ヤマトン	1'31.951
2	11		大湯 都史樹	KK-ZS	TANZEN Rn-s JSS MYST	1'32.502
3	3		澤田 真治	RK01	B-MAX・RK01・TODA	1'32.509
4	72		金井 亮忠	NATS001	チーム NATS・正義 001	1'32.696
5	27	H	八巻 渉	WEST006	モレキュールアキランドイーグル	1'33.460
6	77		久保 宣夫	KK-ZS	オートセレクトジャパン * MYST * 制動屋	1'33.610

第5戦 予選

Pos	No	Cls	Driver	Type	Team/Car Name	Time
1	5		小高 一斗	KK-ZS	MARUSAN☆ヤマトン	1'32.038
2	11		大湯 都史樹	KK-ZS	TANZEN Rn-s JSS MYST	1'32.704
3	3		澤田 真治	RK01	B-MAX・RK01・TODA	1'32.787
4	72		金井 亮忠	NATS001	チーム NATS・正義 001	1'32.879
5	27	H	八巻 渉	WEST006	モレキュールアキランドイーグル	1'33.603
6	77		久保 宣夫	KK-ZS	オートセレクトジャパン * MYST * 制動屋	1'33.637

■第4戦レース リタイア

スタートで大湯選手は痛恨のミス、スタート違反を犯してしまう。ポールの小高選手を先頭に2番手には澤田選手、そして大湯選手は3番手で通過するが3周以内にドライブスルーペナルティを消化しなければならない。ところが翌周には里見、八巻選手にも抜かれて5位で通過、ラップタイムも3秒以上落ちている。実は車にトラブルが発生していた。次の周にピットインすると、そのままガレージインしてレースを終えてしまった。一方レースの方は小高選手が毎周後続を引き離して行く、またスタートで7位まで大きく順位を落とした金井選手だが毎周のように順位を挽回し、7周終了時点で3位にまで順位を上げてきた。15周のレースは、小高選手が2位を5秒強引き離して優勝、2位澤田、3位金井、4位八巻、5位久保、6位鶴田選手と続いた。

第4戦 決勝

	No	Cls	Driver	Type	Team/Car Name	Lap	Time
1	5		小高 一斗	KK-ZS	MARUSAN☆ヤマトン	15	23'23.473
2	3		澤田 真治	RK01	B-MAX・RK01・TODA	15	23'28.608
3	72		金井 亮忠	NATS001	チーム NATS・正義 001	15	23'37.090
4	27	H	八巻 渉	WEST006	モレキュールアキランドイーグル	15	23'46.982
5	77		久保 宣夫	KK-ZS	オートセレクトジャパン * MYST * 制動屋	15	23'47.699
6	6		鶴田 和弥	F108	Rn-sports F108	15	23'52.064
	11		大湯 都史樹	KK-ZS	TANZEN Rn-s JSS MYST	2	

■第5戦レース 2位

大湯選手の車のトラブルは改修されて無事2番グリッドに着ける。前日のミスを取り戻すような見事なスタートを決めてポールの小高選手に並びかけるが僅かに届かず1コーナーは小高、大湯、金井、澤田選手の順で飛び込んで行く。その1周目のパイパーコーナーで前日4位と検討していた八巻選手が単独クラッシュ、すぐにSC導入となった。そして3周目にはSC解除で再スタートが切られた。一方、予選3位でレースも3番手を走っていた澤田選手にはジャンプスタートの判定でドライブスルーペナルティを受けることになる。

小高選手の背後に大湯選手が迫る展開、後ろでは澤田選手がピットロードに向かうと金井選手が3位に上がる。大湯選手は小高選手よりも僅かにペースが劣り少しずつ離されるが、第4レースのように小高選手は2位以下を大きく離すことは出来ず、ワンミスで1-2逆転も可能な範囲で白熱した展開となっている。

しかし最後まで小高、大湯選手共にミスを犯すこともなく、15周のレースは1.9秒差でチェッカーとなった。3位には金井選手、久保選手、鶴田選手、里見選手と続いた。

第5戦 決勝

	No	Cls	Driver	Type	Team/Car Name	Lap	Time
1	5		小高 一斗	KK-ZS	MARUSAN☆ヤマトン	15	26'00.507
2	11		大湯 都史樹	KK-ZS	TANZEN Rn-s JSS MYST	15	26'02.442
3	72		金井 亮忠	NATS001	チーム NATS・正義 001	15	26'11.548
4	77		久保 宣夫	KK-ZS	オートセレクトジャパン * MYST * 制動屋	15	26'23.091
5	6		鶴田 和弥	F108	Rn-sports F108	15	26'24.105
6	73	H	里見 乃亜	WEST006	チーム NATS・エクシズ 006	15	26'31.476

■まとめ

大湯選手は第4戦ではスタート違反をし、またマシントラブルによりリタイアを喫してしまうが、第5戦ではそれらを引きずることなく良いレース展開となった。ただ、前回のレースからのオーバーステア症状は抱えたままの状態、練習走行を含めてセッティングを煮詰めることが出来なかった。これらは本人も自覚しているようセッティングの勉強になっていることと思えるし、また、この車両は昨年、牧野選手が乗って全てのレースで圧勝した車であり、大湯選手も励むしかない。

どうか皆様、これからも大湯都史樹選手をご声援下さい。